

# スペインの中の日本

— 国際人としてより良く生きるために（スペインにおける日本の認知度から考察して） —

前マドリッド日本人学校 教諭

愛媛大学教育学部附属小学校 教諭 角 藤 定 男

キーワード：アンケート、認知度、精神、〇〇道

## 1. 研究動機・及び方向性について

1999年3月にサラマンカ大学に日西センターが開設され、日本語講座を含む同大学の日本関係授業が活発化している（現在18の大学で日本語教育が行われている）。2003年3月に東アジア研究学士課程が認可されたことから、2003年学期よりマドリッド自治大学、バルセロナ自治大学、サラマンカ大学など、複数の大学において日本研究コースが設置された。これに伴い、必修である日本語の講座も拡充してきている。

以上のような状況を鑑みると、スペイン国全体的に日本に関して意識が高まってきていると考えられる。テレビ放送などで日本の「アニメ」や「バラエティ番組」が放送されているのを見てもそれは明らかであろう。しかし、それだけで、日本像を確立している人も少なくない（例えば日本では約20年前に一斉を風靡した「風雲たけし城」というバラエティ番組が、スペインでは「ザ イエロー」という題で今でも放送され、人気がある）。断片的に日本を知ってるが、全体像として見ていないという点がある。

この様な中で、日本人に何が今求められているのか、何が必要とされているのかをいろいろな角度の中から調べ求めていきたいと思い、本研究を実践した。

## 2. スペインに住んでいる人への意識調査の方法

日本についてどのように理解しているか、また、どのようなイメージをもっているかを探るために同一項目の質問事項でのアンケートを行った（下記）。

アンケート項目
1 感情表現
○ あなたは次の言葉をしっていますか。 1 ありがとう 2 ごめんなさい 3 さようなら 4 いただきます 5 どうぞ 6 もったいない
※ 1～3は、世界共通してあることば。4～6は日本独特の感情表現の言葉 知っている人答えた人。
○ あなたは次の言葉を使ったことがありますか。 1 ありがとう 2 ごめんなさい 3 さようなら 4 いただきます 5 どうぞ 6 もったいない
○ (4～6を使ったことがある人) あなたは次の言葉をどのようなときに使いますか。 ・ いただきます ( ) ・ どうぞ ( ) ・ もったいない ( )
2 自然・文化・知識
○ あなたは、次の言葉を知っていますか。 富士山、信濃川、琵琶湖（地名） 正月、節分、祭り（季節行事） 華道、茶道、書道、剣道、空手、相撲（伝統芸能） 畳、障子、瓦、床の間、炬燵（こたつ）、振り袖、袴（道具、服装） わび・さび、風流（日本独特の感覚）
3 一般バラエティ・子どものコミュニティ
○ あなたは次の言葉を聞いたことがありますか。 ① プリキュア ② ドラえもん ③ ウルトラマン ④ トトロ ⑤ フィンガー5 ⑥ ピンクレディ ⑦ モーニング娘 ⑧ 水戸黄門 ⑨ 日本のドラマ名 ⑩ 鬼ごっこ ⑪ かくれんぼ ⑫ ニンテンドー DS ⑬ プレイステーション (①⑦⑨は現在日本で有名なもの。②③④⑤⑥⑧は日本で有名なもの。⑩⑪は伝統的な遊びで、⑫⑬は現在日本で 人気のあるテレビゲーム)
※ アンケートにはこのような注釈はつけていない。 ※ 年齢に応じて、若干言葉の言い回しの違いをつけている。 ※ スペイン語に訳して提示している。

このアンケートを次のような人々に答えてもらった。

(1) スペインで生まれた、または長く在住している10歳～17歳の児童生徒（日本人）。

（マドリッド補習校通学者22名、インター校生徒6名 合計 28名）

(2) スペイン現地校に通う12歳～17歳の児童生徒。

（STMARIA校8名 LOS PENASCALES校22名 合計 30名）

(3) スペイン在住の成人。

（日本人及び、日系スペイン人15名、日本語専攻スペイン人学生28人 合計43人）

### 3. 意識調査の結果（抜粋）及び考察

(1) スペインで生まれた、または長く在住している10歳～17歳の児童生徒

○ 認知度

（ありがとう）		（ごめんなさい）		（さようなら）		（いただきます）		（どうぞ）		（もったいない）	
知っている	28	知っている	28	知っている	28	知っている	28	知っている	28	知っている	28
知らない	0	知らない	0	知らない	0	知らない	0	知らない	0	知らない	0

○ 考察

まず感情表現では、少数であるが一部の項目で使ったことがないという子がいた点に驚いた（知っているが使っていないということである）。その使い方であるが「どうぞ」は、贈答の時に使うという記述がほとんどであった。先を譲るという意味の記述は全くでなかった。保護者が日本人であっても、スペインに長期に滞在している子にとっては、そのような感覚で使用する機会が乏しくなっているのではないかと考察する。

自然・文化・知識に関しては、ほとんどの子どもたちが全てを理解していた（発達段階に応じて若干の違いがあったが、年齢が上がるにつれ、認知率が高くなっている）。

(2) スペイン現地校に通う12歳～17歳の児童生徒。

○ 認知度

（ありがとう）		（ごめんなさい）		（さようなら）		（いただきます）		（どうぞ）		（もったいない）	
知っている	17	知っている	2	知っている	20	知っている	0	知っている	0	知っている	0
知らない	13	知らない	28	知らない	10	知らない	30	知らない	30	知らない	30

○ 考察

まず、感情表現では、「ありがとう」「さようなら」という表現が、ある程度一般化していることに驚いた。日本で使用する「サンキュー」「バイバイ」などと同様の使用方法のようであった。しかし、その他の感情表現の認知度は希有であった。

自然・文化においては「道」と呼ばれている日本では精神を鍛えるといわれる事柄の認知度が高かった。特に、「空手」「剣道」に関してはとても高い。アンケート後の雑談の中ではあるが「ラストサムライ」という映画や「ナルト」というアニメーションなどの影響も大きいようである。

一般バラエティ、子どものコミュニティに関してはとても現在の日本文化の認知度が高いことに驚いた。また他にも「ドラゴンボール」「パワーレンジャー」も有名であることを教えてくれた子どもたちもいた。その中に「片仮名文字」が読むことができ、また書くことも可能な子どももいた。そこで「片仮名文字」について質問したが、読むことすらできなかった。子どもたちの中に日本語＝片仮名という認知があまりされていないという現状がわかった。

(3) スペイン在住の成人

調査結果（A調査人数15人→18歳以上 日本人及び日系スペイン人）

(B 調査人数28人→18歳以上 日本語専攻学生)

○ 認知度

A	(ありがとう)	(ごめんなさい)	(さようなら)	(いただきます)	(どうぞ)	(もったいない)
	知っている 15	知っている 15	知っている 15	知っている 15	知っている 15	知っている 15
	知らない 0	知らない 0	知らない 0	知らない 0	知らない 0	知らない 0
B	(ありがとう)	(ごめんなさい)	(さようなら)	(いただきます)	(どうぞ)	(もったいない)
	知っている 28	知っている 21	知っている 28	知っている 6	知っている 0	知っている 0
	知らない 0	知らない 7	知らない 0	知らない 22	知らない 28	知らない 28

○ 考察

今回の調査は日本人（日系人含む）とスペイン人（日本在住経験無し）に対してであった。特質すべき点は日本に興味をいだいているスペインの方が、流行などに対してとても敏感であり、知識も豊富であったということである。

一方、長年スペインで暮らしている日本人にとって、現在の日本の流行などの知識は曖昧であった。この方たちは日本を離れてから何年、何十年も経っている。その離れたときの「日本」の知識が、今なお心に残っているのからなのではないだろうか。言い換えると、この方たちの「日本」は、その時以来時間が止まっているのであろう。当然、一時帰国なども行っているであろうが、生活根拠地がスペインとなっている今、現在の日本にはあまり興味関心がないのであろう。

ただ、精神面に関しては全く逆であった。過去の記憶とはいえ、日本で教育を受け、長年住んでいた人々にとって精神的に日本文化は、決して切り離せないものであった。「いただきます」等の言葉や「わびさび」等という文化は、スペインではあまり必要としないが、大切にされている感がある。

一方、スペイン人にとっては、アンケートから読み取るとこの精神的な部分は理解しにくいようであり、また必要としていないようにも思えた。しかし、私の武道関係の友人は「『気合い』『おもてなし』という心はスペイン人にとって理解しにくい部分ではあるが、必要なものである」と語ってくれた。この言葉から考えるに、日本とは精神的なもので、スペインの人々を引きつけることができるのではないかと感じた。それは、スペインでの「剣道」「空手道」の普及率の高さからも伺える（今回、アンケートを取った方全員この二つの競技のことを理解していた。また、一昨年度年間スペイン国内で行われた同競技の国際大会は、合わせて20を越えている）。

(4) アンケート全体についての考察

ここまで、スペインの児童生徒、日系の児童生徒、そして一般の人々へのアンケートをとって考察してきた。そこでやはり日本文化の「精神面」に関する部分が、大きな鍵になると理解できた。そこでこの「精神面」からスペインに住んでいる方にアプローチを行い、相互文化理解の糧となる部分を模索していきたいと考えた。

4. 精神面についてのアンケート

(1) アンケート対象者

- ① 空手道の関係者（7人） ② 日本文化に興味を持っている児童生徒（6人）。

スペインに住む日本をある程度理解していると思われるスペイン人の方々に、自由に日本についての思いを語ってもらった。結果、以下ようになった。

(2) アンケート結果（自由記述：口答も含む）

Q1 日本とスペインを比較して違いや感じることはなんですか。

- ・ 日本人は耐える心をもっている。スペインの人はもっていない。待てないし、すぐにいろいろ言う。
- ・ 日本の女の人は髪の色を変える。自分に自信がないみたい。

- ・ 日本には侍がどのくらいいるのだろうか。知りたい（侍=怒の心というイメージを持っていた）。
- ・ 日本人はあまり日本語を使わないけど、スペイン人はどこでも使う（相手に合わせるという意味らしい）。
- ・ 日本人は黙って動く。スペイン人はしゃべりながら動く。だから日本人の考えていることがよくわからない。
- ・ 日本人はとても細かい。アニメなども実写みたいだ。

Q2 日本人の考え方や心で、いいなあと思うことはありますか。

- ・ 盆栽の精神
- ・ 押忍の心
- ・ 他人を感じる心（師匠は自分が思っていることをなぜか、理解しているテレパシー？）
- ・ ごみを捨てない心（自分の出したごみをポケットに入れる姿を見てびっくりした）
- ・ けんかをしない姿（日本人は人前でけんかをしない）
- ・ 見えないところまで注意をする心（精密機械や自動車などで特に感じる）

Q3 日本人は世界に何をアプローチ（何を売りにする）したらいいでしょう。

- ・ 空手、柔道、剣道…10（人）
- ・ アニメ…9
- ・ 気合い、押忍など心…8
- ・ 他人のことを思いやる心…5
- ・ 平和の国…4
- ・ 自らを正す心…3
- ・ 漢字…1



スペインの空手道入門  
のためのパンフレット

### (3) 考察

アンケート結果でも、下記の「空手道道場訓」を見ても、日本人がもっている「精神論」を欲しているように感じられる。

アンケートを取った対象が日本に興味を示していたり、格闘技を学んでいる人たちなので、少し偏った意見もあるかも知れない。しかし、彼らはそれがきっかけで日本に対し興味をもったのであり、それがあがる方向性を指していると考えるところも妥当であろう。

#### 道場の道場訓

1. JINKAKU KANSEI NI TSUTOMURU KOTO (Formación de la personalidad)
2. MAKOTO NO MICHIO MAMURU KOTO (Rectitud)
3. DORYOKU NO SEICHIN-O YASHINAU KOTO (Esfuerzo y Constancia)
4. REIGUI-O OMONZURU KOTO (Respeto a los demás)
5. KEKI NO YU O IMASHIMURU KOTO (Reprimir la violencia)

## 5. 最後に

さて、スペイン人にとって一番興味ある事柄はやはり「精神」的な日本人の考え方であった。日本人は、他者認識や自己コントロールの高さがすばらしいというイメージをもっている。これは、先に行ったアンケート結果でも見え隠れしている点である（いただきます、ごちそうさまなどの感謝の言葉に興味をもっている人が多かった等）。

私は、これから先グローバルな世界に生きる子どもたちに、この心を日本人として意識させていきたい。これは、ここで経験をさせていただいた私の教師としての指針の一つにもなり、また責務でもあるとも痛感している。

最後に私のこちらでの友人である「RAFA氏」の言葉を引用し、終わりとしたい。



RAFA氏夫妻と

「日本」は全ての関わり合いの中でみんなが学び合っています。人が人のために、心を使うとき、またその心を感じることも全てが学びなのです。そんなすばらしい学びの場がJAPONなんです。日本人にとって生活そのものが我々の教会なんです。私は日本の「精神」が世界を覆うことを望んでいます。